

平成24年度アマノリ養殖概況

中西達也・棚田教生

育苗期（10月下旬～11月中旬）における鳴門庁舎汲み上げ海水温はやや低め～平年並みで推移し、徳島市の気温（徳島地方気象台）は平年並み～平年より低めに推移した。一方、DIN濃度は、10月中旬～11月中旬に県下の広い範囲で大型珪藻*Coscinodiscus*属が発生し、育苗期間を通じて低く推移した。

ノリ生産は11月下旬から始まった。鳴門庁舎汲み上げ海水温は11月～2月にかけて平年値を0.3～1.6 下回る値で推移した。DIN濃度は、11月下旬～12月上旬に県下の広い範囲で4～6 μg-at/Lまで回復した。しかし、1月上旬には県南漁場を中心に珪藻*Skeletonema*属が発生し、2月中旬からは県下の広い範囲で*Eucampia*属が発生した。この結果、DIN濃度は色落ちの目安となる濃度（3 μg-at/L）を下回る日が続き、県南部漁場を中心にノリの色落ちが発生した。

平成24、23年度の月別徳島県漁連共販数量の推移を図1に、年度別共販数量と平均単価の推移を図2に示した。共販枚数は、12月が前年比276%、1月が同139%と、漁期前半が著しい不作だった前年を上回ったが、2月以降は色落ちが深刻になり生産を見合わせる産地が多くなった。この結果、共販枚数は2月が前年比108%、3月が同56%、4月が同70%と伸びなかった（図1）。

平成24年度漁期の共販枚数は105,566千枚で、前年比100.3%と変わらなかった。一方、平均単価は、昨年の下物高相場及び本漁期後半の色落ちの影響から6.85円（前年比79.8%）と大幅に下落した（図2）。

水産研究所は、徳島県ノリ研究会に協力し、10月31日に阿南中央漁協、11月22日に渭東漁協で健苗度調査を実施した。

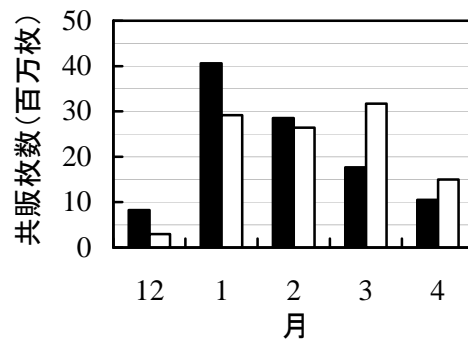


図1. 月別共販枚数の推移。 ，平成24年度； ，平成23年度

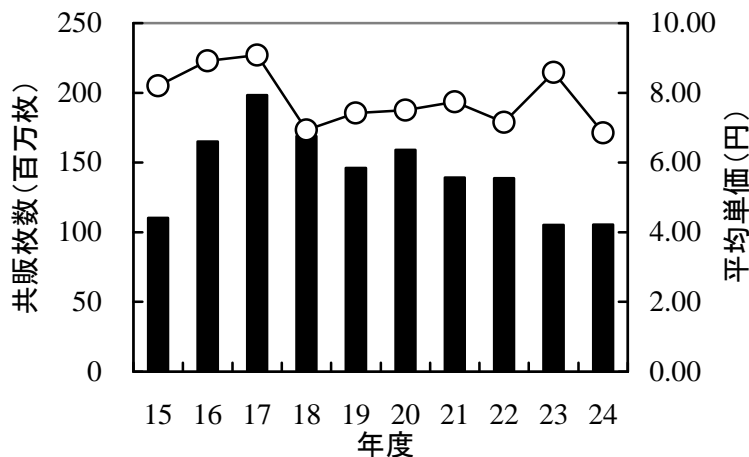


図2. 年度別共販枚数と平均単価の推移。 ，共販枚数； ，平均単価